



中央 同窓会報

第29号

CONTENTS

■ 特別寄稿 3	■ 同窓会活動報告(収支報告) 9
■ 恩師は今 5	■ 進路だより 10
■ 母校だより 6	■ 同窓会活動報告・他 12

■ 題字：8期 廣瀬 正史（少林山住職） ■ 表紙の写真：現在の校舎

令和4年度
通常総会のお知らせ
 日時▶ 2022年6月18日(土) 17時～
 会場▶ 前橋ロングサンドホテル
 前橋市石倉町2-4-1 TEL.027-251-8311
 今回、会場が通常と異なりますのでご注意ください。
 新型コロナの感染状況によっては、総会終了後に懇親会を予定します。その場合、当日の2週間前までにホームページに掲載します。



発行
群馬中央同窓会

卒業者数 15,272人 (中央高等学校 13,697人 中央中等教育学校 1,575人) 2022年4月1日現在
 〒370-0003 群馬県高崎市新保田中町184 TEL.027-370-6663 FAX.027-370-4910
 ホームページ <http://www.chuo-ss-ob.com>

中央中等教育学校校歌
 中央高等学校校歌
 作詞 草野 心平 作曲 渡辺 浦人

一、春はむらさき 夏は雲
 群青の秋 雪の冬
 白亜に映える 学び舎に
 太陽光は ふりそそぐ
 おお朋がらよ 眉あげて
 火の山の 高きにならえ
 若人よ 腕組みて
 新しき学を きわめん
 群馬中央 われらが母校
 われらは真と美に生きる

二、赤城風を なつかしみ
 仰ぐは四季の 榛名山
 校旗はためく 学び舎に
 われらは集う おおらかに
 おお朋がらよ 胸張りに
 健康に わが身鍛えん
 若人よ こぞりてぞ
 新しき文化 築かん
 群馬中央 われらが母校
 われらは善と義に生きる



中央高等学校
 昭和38年1月1日創立



中央中等教育学校
 平成15年4月1日創立

同窓会長あいさつ



みんなで顔を
合わせましょう

同窓会長 時澤 秀明

同窓会長2年目となりました。同窓会活動の活性化に向け、役員一同さらに努力していきますので、会員の皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

コロナ禍により食事会や飲み会が制限されてしまいましたが、早く再開したいと思っている人はたくさんいるようです。食事もお酒も一人でできますが、みんなで顔を合わせることに特別な意味合いがあると思われまます。

群馬中央同窓会の総会・懇親会も同様で、例年通りの開催ができなまま3回目となり、とても残念に思います。しかし、以前、中央中等の期別幹事の皆さんと同窓会活動について意見交換した際に、「年に一度集まってお酒を飲むことに意義が感じられない」というご意見をいただいたことがありました。それを聞いたわれわれ役員の中には、うまく回答できる者はいませんでした。言われてみれば、何のためにやっているのか、明確な目的意識がなかったのだと思います。

その後、役員会でも総会・懇親会の開催意義や開催方法等について何度も話し合いを行いました。結果として、総会・懇親会で旧知の仲間や新たな仲間と顔を合わせて語らうことには大きな意義があり、参加者を増やしていくことが重要な課題であるとの認識に至ったのです。我々が共通理解した意義について、ここで述べることは差し控えますが、参加者増加に向けた試みを紹介します。

○同級生による同期会・クラス会や、部活動やサークル等のOB・OG会を、中央同窓会総会・懇親会に合わせて開催していただく。

○懇親会では期・部ごとのテーブルを用意したり、期や部等の総会等を実施する場合は部屋を用意したりする。

○恩師を招待したい場合は、学校にもご協力いただき、同窓会から招待する。

さらにアイデアを募り、参加者の増大を目指して、令和5年度の総会・懇親会から試行してみたいと考えています。期別幹事のみなさん、部の代表の方、職場における卒業生の会の代表の方等々に、事前に申込書を送付しますので、前向きに検討いただければ幸いです。それぞれの代表者を全部把握しているわけではありませんので、皆さんの方から同窓会役員に申し出ただけであれば助かります。さあ、みんなで顔を合わせましょう。そして語り合いましょう。

校長あいさつ



新しき学をきわめん

校長 中西 信之

この春、中央中等教育学校長として着任いたしました。よろしく願いいたします。また平成28年度から2年間、教頭として勤務させて頂いた折には、群馬中央同窓会の皆様に大変お世話になりました。久しぶりに見る懐かしい新保田中の地ですが、思えば私が17期生として入学した頃は、長閑な田園風景ばかりが広がっていました。在学中に関越自動車道の開通や北グラウンドの拡張がおこなわれ、校舎から見える風景が変貌したことを覚えています。その後も、隣接地への大学建設や近隣道路が拡張されたことに伴い、学校周辺は市街化が進みましたが、校歌に唄われる赤城風は健在で、懐かしむ余裕を与えてくれる優しさは今もみられず、容赦なく吹いています。

さて、一昨年から続くコロナ禍の収束がなかなか見通せない中で、本校においても部活動や学校行事が思うようにおこなえず、生徒達にとっては厳しい状況が続いています。しかし、このような中でも生徒と教職員が「できること」や「新たな工夫」に知恵を絞り、未来型の思考で乗り切る努力を続けています。まさにこの姿勢こそ、脈々と受け継がれているフロンティアスピリットであり、中央の強みであると思います。また現代社会は、コロナウィルスの感染拡大や軍事侵攻による世界平和への脅威、地球温暖化をはじめとする環境問題など、世界各国が協調して取り組むべき課題が山積していることから、次世代を担う人材には、課題解決型の思考とリーダーシップを兼ね揃えた能力が求められています。本校では学年ごとに、身近な地域課題から世界的課題へと段階的に探究活動を行うFEWCプログラムを展開しており、時代のニーズに対応した人材育成教育を進めています。この活動は同窓会ならびに朋友基金の支援を受けて運営されており、改めて関係各位に感謝申し上げます。

中央高校から中央中等教育学校へ継承されている「燃えよ中央」の気概は今も健在です。群馬中央同窓会の皆様には引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

特別寄稿

若いひとへの手紙
～「考えること」の大切さ～



新島学園短期大学 元特任教授
3期 鈴木 通春

高校時代

1965年に3期生として入学しました。生徒は品行方正でのんびりした自由な雰囲気、若い先生が多く在籍し、創立間もないためか先生方は熱心に指導して下さったことが良い思い出です。

当時は、運動部の活動は活発で関東大会に出場していましたが、文化部はそれほど活発でなかったことから、友人と相談し弁論部を立ち上げました。2年生になり、日本国際連合協会主催の弁論大会では群馬県代表として全国大会に出場しました。ただ、文化祭実行委員長や部活動に集中するあまり勉強しなかったため、卒業後は残念ながら浪人しました。

中央高校時代の学びや経験が大学生活や就職してから役に立ちました。

キャリア～群馬銀行・群馬テレビ・大学～

大学卒業後は群馬銀行に入行しました。支店勤務を経て本部(本社)へ転勤になり、主に法人(会社)部門の仕事で、東京駐在では大手企業などを担当していました。例えば、群馬県と連携して大手企業の工場を県内への誘致活動が挙げられます。工場が進出すれば雇用も増え、県全体の発展につながるからです。

銀行員時代はどのような取組みをしたら地域経済の発展に結びつか、取引先の支援をどのようにしていくのか常に考えていました。

その後、群馬テレビへ3年間出向しました。2022年現在、28年続く長寿番組になっている経済情報番組「ビジネスジャーナル」の立ち上げにも携わりました。現在もそうですが、情報が東京から多く発信されています。群馬県内にも優良企業や立派な経営者もいますし、経済情報を県内から発信できないかと考え企画しました。新番組ということでスポンサーを探すのに苦労しましたが、プロデューサーの仕事で、県内外の企業・団体200社のトップを取材、放送内容がタイムリーな話題なのかを常に考えて放送していました。その後、銀行に戻り数カ所の支店長も経験しました。

銀行在職中は2度出向したので、「キャリアとは何か」「働くとは何か」を考えるようになり、「働き方・社会の仕組み」等数多くの本を読破。キャリアコンサルタント(国家資格)の資格も取得しました。こうした経験を活かし定年退職後は、新島学園短期大学に就職しました。特任教授やキャリアセンター長として、主に「進路ガイダンス」を担当し、教職員とチームを組んで学生の就職支援や4年制大学への編入学指導を中心に取組んできました。

進路を考えるうえで大切なことは

8年間の短大での指導で学生によく伝えたことがあります。それは、「知ることも必要ですがより考えることの大切さ」です。大学の進路を考えるときは、家族などにキャリアの話の聞いたり、先輩の話も参考にし、そのうえで自身が過去にどんなことが好きだったか、今何に興味を持っているか等を振り返り、「何を学びたいか」を熟考し判断します。悩み決めかねることがあると思いますが、「まず考える」ことが大事です。

そこで参考となるのが情報収集です。興味ある大学のオープンキャンパスに参加して模擬授業を受講するのも良いでしょう。

大学でのゼミの授業では、アクティブラーニングを取り入れています。アメリカで導入され日本でも高校や大学で多く取り入れています。スクール形式の座学ではなく、互いに顔を見ながらテーマを決めてその問題を主体的に対話形式に学修していきます。相手の立場になって言葉を選び、価値観の違う人や個性的な人の意見も尊重しながら進めていきます。物事を知るのに、かつては暗記を重視していた時代もありました。議論を効果的に進めるには暗記も確かに必要ですが、「考える力」がより重要と思われまます。

充実した大学生活を過ごすためにも

大学の授業もコロナ禍で2年が過ぎ、現在、オンライン授業と対面授業の併用授業(ハイブリット授業)になっています。パソコンを使う機会も多くなっていますが、一番注意しなければならないことはフェイクニュース(偽情報)です。SNS情報に触れる機会が多く発信元を確認しないで情報を受け入れてしまうことがあります。真偽を見極めるためには発信元の確認や、家族や教員と内容をよく話をするのも大切に思います。また、大学生活で困ったときは、学生支援課などの教職員に相談すると親切に相談に乗ってくれます。奨学金、トラブル、障害者支援の問題等にも対応してくれます。

大学は学生の成長支援や地域への知の拠点としても支援しています。学生は教えてもらう「受動的な姿勢」ではなく、自ら進んで学ぶ「主体的な姿勢」で果敢に挑戦してみてください。「社会を知る」ことも重要で、アルバイトもその一つかと思いますが、やりすぎないことです。高い授業料を取めていますので、学業を優先することをお勧めします。大学の多くは「地域連携活動」にも力を入れています。地域との関係を密接にして、地域社会への提言や地域活動への参加も重要な学びの一つですのでぜひ提案や参加をしてみてください。

最後に、現在は「予測不能の時代」「ニューノーマル(新しい常態)の社会」と言われて、コロナ感染拡大や気候変動など今まで直面してこなかった事象が世界中で数多く起きています。そうしたなかで、自分は何ができるのかを考え抜き、実行することが求められています。失敗や回り道もあるかもしれませんが、そこから学ぶことも多くあります。悲観せずたくましく様々なことに挑戦してみてください。

(2021年度に特任教授を退任し、現在、同短大キャリア教育研究センター客員研究員)

特別寄稿

中等で頑張るみなさんへ

慶應義塾大学 総合政策学部2年
中等11期 高橋 史好



中等生のみなさん、こんにちは！
スピコンの原稿を暗唱しながら自転車登校したり、お弁当を食べながらもシス単に追われた日々を本当に懐かしく思います。
不思議なもので、卒業するとそんな大変だった時間さえも恋しく思います。
卒業後2年が経ち、私の存在を知らない方のほうが多いと思うので軽く自己紹介をさせて下さい。
10期生として入学し、前期バド部、後期バレー部に所属していた、高橋史好です。5年の夏に1年間インドに留学をし、復学後は11期生として中等にお世話になりました。
現在は、慶應義塾大学の総合政策学部2年で、中等時代にGSで作っていた事業案を実現させ、桐生市でTUKTUKを走らせたり、登録者10万人規模のインド向けYouTubeチャンネルを運営しながら、その延長で日本×インドの領域で事業作りをしています。

まだまだ未熟な私ですが、せっかく頂いたこの機会に、皆さんと近い年代の者として感じていることや、中等時代の自分にかける言葉という視点で、僭越ながら少し書かせて頂きます。皆さんの小さなきっかけとなったら嬉しいです。

様々な情報が飛び交うこの時代には、違う世界でキラキラする同年代や、違う常識の中で生きる幸せそうな子、色々な物が簡単に目に入ってくるように感じます。また、中等にいる皆さんは、「地球市民」「課題探求」と外に目を向ける事を求められながらも、日々の目の前に積み上がったタスクとしての勉強にも追われる。
真面目だからこそ、色々な方面からの期待の板挟みになる時もあると思います。
そんな選択肢がぐんと増え、誰が何をしているのかと情報が錯綜する中で、今の自分の置かれた状況とのギャップに不安を煽られたり、苦しくなることもあるんじゃないでしょうか？

現に私も外に目を向け動く中で、手綱を掴みかけながらもそうまくは行かない歯痒さや、「中高生」として求められる普段の生活とのギャップに悩んでいた時期があります。
その両極を全力で彷徨った私なりの答えは、どちらの世界線も知っておくことが価値あるという前提で、ただそれらに扇動されすぎず、目の前の物に全力で取り組める人こそが強いという事です。
外に目を向け社会を知り、チャンスを見極める眼を養うのは

前提。その上で目の前のことに粘り強く取り組める人にこそ、訪れた機会を離さず、ものにする胆力があるはずです。
今は選んだ場所でド派手に咲ける時代とも言われますが、だからこそ、置かれた場所で咲く粘りと根性は価値があり、評価されることだと思います。

そして、現に置かれた場所で地道に真面目にコツコツ継続した経験は、今チャレンジをする私の一番のこころの支えと自分への肯定感につながっています。

私は同年代の中では色々な経験をさせて頂いている方だとは思いますが、中等でも特段優秀な方でもなく、一生懸命ついで行っていたタイプでした。上京してからというもの、動けば動くほど色々な厳しい意見に揉まれたり、「学生だから」と真っ当に取り合ってもらえなかったり、昨日までの自分の未熟さに恥ずかしくなる事を今も毎日のように繰り返しています。

その中でも結局自分を支えているのは、追われながらも、中等時代に小さな成功体験をコツコツ積み上げた事だと感じます。「スキットを丁寧に作る事」「数学で基礎コースから抜けた事」「部活をやめない事」「シス単に落ちない事」「GSの発表で選ばれた事」。ほんの些細な事でしたが、中高生で沢山の小さな力試しと結果のフィードバックの繰り返しをしたのは人生の尺で考えても、尊い出来事だと感じます。
私はこれが“壁にボールを投げて返ってくる正しい感覚値を掴む事”に近いイメージを持っているのですが、その感覚を掴んでいった先に、努力の癖付けや正しい自己理解と肯定感を得られた気がします。

自分のマインド次第で、小さな成功体験に全てを捧げられる学生の時間だからこそ、たくさんボールを投げてほしいと思います。そしてその正しい力試しの種類と場数、また先生方、仲間の熱量でいうと、中等は最高の場所だと私は思います。
今になったからこそそう思えるのかもしれませんが、今皆さんに与えられているものは見当外れなものではなく、自分の取り組み方次第ではどれも大切なものになるはずだと私は感じます。

まだこれと言って方向性が定まっていなかったり、何のために頑張っているのか分からない人も、1つ何か決めて小さな力試しをしてみて欲しいと思います。少しずつ、壁からボールが返ってくる感覚を掴んで欲しいです。

長くなってしまいましたが、今この場で頑張っている皆さんに大きな尊敬と応援の気持ちでいっぱいです。そんな皆さん全員が、尊い中等生活をおくり、今後の人生の大きな指針や糧となることを願っています。
私も頑張ります！

恩師は今

お世話になった先生方に在任当時の思い出や近況を書き綴って頂きました。



高橋 利之先生

- ◆中央高等学校在任期間
平成6年4月～平成16年3月(10年間)
- ◆中央中等教育学校在任期間
平成16年4月～平成29年3月(13年間)

我が「中央」

中央高校での思い出

平成6(1994)年4月、2校目の学校として中央高校に赴任しました。28歳の春でした。その後中央高校と中央中等教育学校合わせて23年間勤務し、教員人生のほとんどの歳月は“新保田中町”で過ごしたことになります。
赴任した前年の平成5(1993)年に開校30周年式典が挙行され、伝統校への仲間入りをしたところです。周辺は田園地帯で、学校から少し離れると細い道ばかりでした。校歌「白亜に映える学び舎」が田んぼの中に立っていました。
普通科6クラス、理数科2クラス、3年には最後の男子クラスがありました。中央高校は、リーダーシップのある生徒が多く、積極的に前向きに勉強も部活動も、真剣に取り組んでいました。先生方は、経験豊富で優秀な先生方が多く、教員としての力量を高める機会となりました。中央高校で、33期、36期、39期生の担任や副担任をしました。

中等教育学校へ改編

平成14(2002)年の三学期始業式の午後、職員集合があり、「中央高校を閉校し中等教育学校へ改編」と発表がありました。寝耳に水でとても驚きました。
改編が決定したときは、校名は未定でした。同窓会、生徒、職員で、校名を「中央」にして欲しいと活動したと

記憶しています。校名が「中央」に決まり、校歌もそのまま歌い続けることとなり、伝統が繋がった気持ちになりました。
新校舎の建設のため、中央高校生は北校舎からプレハブ校舎への引越、北校舎は大掃除をした後解体が始まりました。プレハブ校舎は、夏は暑く、また冬は砂だらけで教卓から後ろの黒板が霞んで見えるときもありました。このプレハブ校舎で39期生と卒業式まで過ごしました。

中央中等教育学校

平成16(2004)年4月、中央中等へ異動となりました。廊下を仕切った仮職員室で、準備室からいる先生と異動してきた先生と力を合わせ入学式の準備が始まりました。
先月まで小学生だった1年生と、高校3年が同じ校舎でうまくやっていけるのだろうか?不安もありましたが、対面式の時、中等1年生が入場すると中央高校の生徒から「わあ～。かわいい」と声があがり、温かく迎えてもらいほっとしたことを思い出します。
学校生活を送るにいろいろなことが決まっていない状態で、その都度、全職員で知恵を絞り、中央高校と調整し、生徒と一緒にルール作っていきました。中央中等の生徒たちは「フロンティア」として、職員と一緒に新しい学校を作っていました。また新校舎への引っ越しや各種行事の際には保護者の方に協力いただきました。
1期生の副担任、2期生の担任、7期生の副担任・担任、6期生の副担任、

教務主任などで13年間勤務しました。中等教育学校の礎づくりに少しは貢献できたのではと自負しています。

中央高校最後の卒業式・継嗣式

中央高校と中央中等教育学校が共存した期間は5年間です。年度ごとに、学校行事と一緒にやるのか別なのかなど、両校間で検討し、後期課程の部活動は一緒にチームで活動し、文化祭や体育祭は生徒会と一緒に運営するようになり、中等の生徒も中央高校の生徒を先輩と認識するようになっていきました。
平成20(2008)年には中央高校は3学年だけとなり、平成21(2009)年3月3日に中央高校第44回目卒業証書授与式と継嗣式を行いました。中央高校の校旗を降ろす時には、寂しさが込み上げてきました。

その後

中央中等から異動して5年間、教頭としてなれない事務仕事をしています。今の勤務先の富岡高校では中央高校時代に生徒だった教員と働いております。
息子が今年3月に中央中等教育学校を卒業いたしました。学年主任だった森山先生をはじめ多数の先生方に6年間にわたり成長を支援して頂きました。息子が在学していたので、中央中等の行事等にも参加することができうれしく思ったものでした。卒業をもって「中央」と関わりがひと段落となりました。在職期間23年と合わせ28年間ありがとうございました。
中央中等教育学校は、来年度開校20年目を迎え、伝統と歴史を積み重ねていっています。中央高校から発展した中央中等教育学校が、教育界のフロンティアとして、さらに進化を続けていくために中央高校と中央中等教育学校の卒業生の皆さんが結束し、群馬中央同窓会の日頃の活動を充実し盛り上げていっていただきたいと願っています。

生徒会長あいさつ



動力源

令和3年度生徒会長

5年 竹村 拓朗

大きなもの（学校）を動かす時や携わっていく時、大きなエネルギーが必要だ。そのエネルギーを生むためには「動力源」が必要だ。何を動かそうとするかは人それぞれ異なると思うが、学業や部活動においても「動力源」が必要であることは言うまでもない。

～ では、中央中等生の「動力源」は何か ～

それは、「絆」だと思う。友達同士はもちろんのこと、部活動のときは学年の垣根を超えた絆もある。「絆」というと少し大仰な気もするが、ようは「仲がいい」ということだ。どのクラスも常に賑やかで、笑い声が飛び交っている。人それぞれ性格は異なるが、実は「みんな」エンターテイナーだったのだ。しかし、笑っているだけの学校生活ではなく、「みんな」なにかに向かって頑張っているのも「絆」の片鱗だと思う。小テストなどの小さなものからゆくゆくは大学受験といった勉強面では感化される。また、部活動において、大会や演奏会などの大きな舞台に向けた団結力は凄まじい。

上記のような雰囲気は生徒だけではなし得ないと思う。我々のことを（ときには我々の笑いのツボまで）理解してくださっている先生方が、後押ししてくださったのだと思う。

また、ローマは一日にして成らずという言葉にも代表されるように、大きなものは決して短期間では完成できない。つまり、我々が楽しく学校生活が送れているのは、代々の積み重ねであると思う。その積み重ねによって醸成された、中央中等の良いところがこの先も続いていくようにしたい。

それを実現するべく、生徒会本部では、意見フォームの作成に取り組んだ。昨今のオンライン化の波もあり、Google Formsを利用し、意見を聞く予定だ。（3月24日時点）生徒から意見を聞くということは、重要なことであるが難しい。それが一歩前進出来たことは生徒会本部にも励みになった。この他にも、学校の中だけでなく、外にも目を向ける、ということ。これまでもオンラインでの意見交換の場を設け、生徒会本部のブラッシュアップに繋がっていきたい。（3月24日時点）と、新しい活動も吹き込みつつも、今までに引き続き、エコ活動や中央放送局、学校HPの更新といった活動も行っている。そして、生徒会本部の「基礎事項」とも言える、対面式や学校行事の運営も着々と準備をすすめている。残りの期間では、昨期までの生徒会本部から現在、そして次の代へ良い形で絆を繋げるよう努力したい。



コロナ禍のため、リモート配信での講演となりましたが、先生の分かりやすく丁寧な説明のおかげで、皆集中力を切らすことなく最後まで熱心に耳を傾け、決められた時間はあっという間に終了しました。

講演の内容は、一見難しそうな研究テーマを、先生の体験を交えながら、いくつかの事例を丁寧に説明していくという進め方で、とても分かりやすく、非常に有意義な体験をさせていただきました。

講演の最後に、先生から生徒達へのメッセージとして、

- 研究は楽しい
- 労力を惜しまないで、とにかくやってみる
- うまくいかない時こそチャンスと思え
- 自分にできないはずはないと思込め等のアドバイスを頂きました。

どれも今後の人生にも役立つ、貴重なお言葉でした。

講師プロフィール

群馬大学理工学部教授

板橋 英之先生

群馬県桐生市出身。

新型コロナウイルス感染症に関係してウイルスを不活化する銅繊維シートを開発して話題となった株式会社グッドアイの取締役会長でもある。

研究分野は、環境解析評価、環境保全対策、分析化学。環境（水・土壌）中の重金属元素（銅、カドミウム、鉛など）を取り除く方法を開発している。これまで、ウッドチップと炭を原料とした重金属と有害有機物質（ホルムアルデヒドなど）の吸着材、植物溶出成分を配位子に用いた吸着材を開発。また、バーク、リグニン、フミン物質などの天然素材を用いた重金属の除去技術と植物への重金属取込抑制技術を開発している。新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）を始めとしたウイルス不活化材料の開発に関する研究を行っている。

2004年より群馬大学工学部教授。2009年から2013年工学部長・工学研究科長。2021年から群馬大学副学長。



令和3年10月1日、開校記念講演会が群馬大学副学長 板橋英之先生を講師としてお招きして開催されました。

生徒の感想

本日は貴重なご講演をして下さり、ありがとうございました。

どのテーマも一見難しそうではあったのですが、ご丁寧な説明のおかげで、高校生の私たちでもとても興味深く、楽しく拝見することができました。

私は科学部に所属しており、自律型ロボットの研究をしています。

やはり大学や企業の研究と比べると一高校生の研究で実用化は…と考えていた節もあったのですが、先生の研究で最初は失敗もあり、当初の目標とは異なっている、最後には実用化され、社会に貢献されていることを思うと、私たちの研究も何かの役に立つかもしれないと、期待を持つことができました。

本日は本当にありがとうございました。（5年生）

今回の講演で研究をするときに重要なことを教えていただき、私もFEWCで研究をしているため大変勉強になりました。また講師の先生の研究に関連することに興味があったので研究内容についてのお話を聞く中でその分野への関心がより一層高まりました。研究でのアイデアを実現するためベンチャー企業を立ち上げたというお話と挑戦を続けることが大切だという言葉を聞いて私もこれから失敗を恐れずに様々なことにチャレンジしていきたいと思いました。（5年生）

僕は板橋教授のお話を聞いて、とても好奇心をもって研究に取り組んでいるんだなと感じました。特に印象に

残った話は、銅に特殊な繊維をプラスすることで、コロナウイルスを1分間ほどで無効化してしまうという事です。世界的にこのウイルスが流行している中、このような発見をすることが出来て凄いなと思いました。僕もこれから先研究活動をしていく時は、まずは好奇心を持ち、何かに行き詰まってしまっても気合と根性で乗り切っていきたいです。（1年生）

私が今回の講演を聞いて、思ったことは研究は楽しそうだということです。研究室では、自分の好きな研究ができるのは楽しそうだと思いました。また、1年の中で沢山の行事があり、研究室の仲間との関係が深まってより良い研究ができるということも楽しそうだと思いました。さらに、偶然の発見をして、それを明らかにするためにまた、色々な実験をするのもいいと思いました。私は将来、薬剤師になりたいのですが、今回の講演を聞いてその気持ちがより一層高まりました。本当にありがとうございました。（1年生）



令和4年4月1日付 学校教職員人事異動（敬称略）

離任者				新任者			
職名	【教科】	氏名	転出先等	職名	【教科】	氏名	前任校等
校長		田島 公基	定年退職	校長		中西 信之	前橋工業高校
副校長		宮崎 孝宏	伊勢崎市立宮郷小学校	副校長		新免 誠	前橋市立元総社中学校
事務長		佐藤 彰通	定年退職	事務長		岩丸 等	沼田高校
教諭【数学】		森山 浩司	渋川高校	教諭【保健体育】		境原 尚樹	高崎高校
教諭【地歴】		齊藤 幸男	高崎高校	教諭【数学】		斎藤 史子	玉村高校
教諭【理科】		小沢 真理	前橋高校	教諭【英語】		西村 吉史	宮城県立仙台第三高校
教諭【音楽】		織田 大地	高崎高校	教諭【地歴】		須長 桂介	伊勢崎高校
教諭【英語】		清水可奈子	退職	教諭【音楽】		武井 康博	伊勢崎商業高校
教諭【社会】		中村哲次郎	前橋市立桂萱中学校	教諭【化学】		前原 彬孝	四ツ葉学園中等教育学校
教諭(再任用)【数学】		戸塚 英之	退職	教諭【数学】		高橋 昌宏	市立前橋高校
教諭(再任用)【保健体育】		松本 稔	桐生高校	教諭【社会】		高柳 潤海	高崎市立岡中学校
教諭(地公認)【保健体育】		篠原かすみ	太田女子高校	教諭(地公認)【保健体育】		上田 直美	新田暁高校
実習助手(地公認)【理科】		遠藤 良太	退職 前橋育英高校	教諭(地公認)【国語】		後藤 隼斗	沼田高校
事務(主幹)		重田 貴子	玉村高校	教諭(地公認)【英語】		小見慎太郎	新卒
司書専門員		滝沢希代美	前橋西高校	実習助手(地公認)【理科】		横田 千絵	渋川高校
副公仕長		三森 孝	前橋工業高校	事務(主幹)		塩田 佳宏	群馬県教育委員会
非常勤講師【美術】		浦野 礼三	退職	司書専門員		角田 奈々	高崎高校
非常勤講師【社会】		星野 太	退職	公仕		新井 康弘	前橋工業高校
非常勤講師【国語】		重田 和希	万場高校	非常勤講師【社会】		角田 治雄	伊勢崎市立赤堀中学校
				非常勤講師【美術】		武井 明恵	渋川市立赤城南中学校



令和3年6月2日～4日、第1回紫陽祭が開催されました。これは、新型コロナ蔓延の影響で朋友祭・体育祭を始め、様々なイベントが中止になる中、自分達の一生の思い出作りをしたいと生徒達自らが企画・立案し、昼休み等のほとんどすべてを費やして実現にこぎつけたイベントです。バレーボール、バスケットボール、サッカー等の競技だけでなく、ドッジボール、しっぽ鬼、ダンス合戦、またステージでの催しなど、娯楽の要素もふんだんに取り入れ、今までにないイベントの開催となり、苦勞をした分だけ思い出深く、一生の思い出作りが出来ました。

紫陽祭を振り返って

実行委員長 6年 吉田 莞大

感染症対策の影響で、しばらくの間一度に集まることのできなかった僕たちですが、それ以来初めての全校生徒が集まれるイベントが開催できたことを、実行委員長として誇りに思います。また、紫陽祭最終日は自分の誕生日だったこともあり、全校生徒約720人に祝ってもらえて、思わず感涙してしまいました。僕にとって紫陽祭は一生の宝物です。ほとんどすべての昼休みを使ってくれた実行委員を始め、全校生徒の皆さんには感謝しかありません。本当にありがとうございました。

スローガンの意味

創案者 6年 金井 いびき

2020年世界はコロナ禍に見舞われ、私達学生は、何もできない、させてもらえない、全てが制限付き。そんな青春氷河期を過ごしました。たくさんさんの大会や演奏会が潰れ、悔し涙を流した人もたくさんいると思います。

このテーマ、「啓暎」は二四節の一つである「啓蟄」をモチーフにしています。啓蟄は冬眠していた虫が春になって土から出てくる、という意味ですが、紫陽祭の名前の由来は紫陽花で、テーマが虫だと少し微妙なので1文字変えて「啓暎」。「冬を耐え抜いた蕾が春になって咲く」という意味の造語です。

また、「咲」という漢字には「笑う」という意味もあるので、「コロナ禍を乗り越えてまたみんなで笑い合いたい」という願望も秘めています。

紫陽祭が失われ凍りついた私達の青春を取り戻してくれる春のような存在になって欲しい。そして笑って青春を謳歌したい。そのような思いを込めました。

「第1回紫陽祭」成立の経緯

特別活動部長 教諭 織田 大地

コロナ禍で昨年度の朋友祭は中止となってしまいました。寒さが増す頃、来年度はどうするか？という企画が立ち上がりました。

隔年開催だと体育祭の順番。しかし今年できなかった朋友祭をやりたい。三密対策を考慮すると、どちらもできない・・・

実行委員が検討を重ねた結果、感染症対策に留意することを最優先に、体育祭・朋友祭の内容を併せて精選し、さらに独自の競技を加えた内容が出来ました。

朋友祭でも体育祭でもない、新しい行事です。6月なので紫陽花からとられた「第1回 紫陽祭」と名付けられました。

これは、コロナ禍収束の暁には体育祭・朋友祭に戻すこと。この状況が続くとしても第2回紫陽祭の可能性に繋げる事。どちらにも対応でき、机上だけでは得られない体験・学びの機会を無くさない、という願いが込められています。



収支報告

令和2年度 群馬中央同窓会決算

■ 一般会計

収入の部 (単位:円)				
科目	予算額	決算額	差引増減	備考
繰越金	130,687	130,687	0	
運営費計	3,342,000	3,298,000	△44,000	
入会金	1,190,000	1,190,000	0	10,000円×122名
特別会費	952,000	952,000	0	8,000円×122名
年会費	1,200,000	1,156,000	△44,000	2,000円×533名
総会会費	200,000	0	△200,000	
特別積立会計より	1,700,000	1,000,000	△700,000	
その他収入	313	12	△301	預金利息
合計	5,373,000	4,428,699	△944,301	

支出の部 (単位:円)				
科目	予算額	決算額	差引増減	備考
会議費計	520,000	26,248	493,752	
総会	400,000	0	400,000	通常総会
会議費	120,000	26,248	93,752	役員会
事業費計	4,240,000	3,735,208	504,792	
会員親睦費	200,000	50,000	150,000	活動費補助
母校寄与事業	1,000,000	1,000,000	0	図書蔵書、地球市民語学研修補助ほか
会報制作・発行費	2,700,000	2,646,378	53,622	
行事費	300,000	0	300,000	開校記念式典ほか
Webページ設置管理料	40,000	38,830	1,170	Webページ管理料
役員費計	115,000	99,655	15,345	
通信費	15,000	0	15,000	
払込手数料	100,000	99,655	345	年会費払込料金加入者負担額 中央中等職員歓迎会参加費ほか
渉外費	100,000	0	100,000	
広告費	60,000	22,000	38,000	高校野球ガイド広告掲載料
慶弔費	120,000	40,745	79,255	香典、供花
卒業記念品費	85,000	82,076	2,924	卒業証書ホルダー
転退職員饗別	60,000	60,000	0	転退職員饗別
積立金	0	0	0	
予備費	73,000	0	73,000	
合計	5,373,000	4,065,932	1,307,068	

収入総額4,428,699円 - 支出総額4,065,932円 = 362,767円 (次年度へ繰り越し)

■ 特別積立会計

収入の部 (単位:円)				
科目	予算額	決算額	差引増減	備考
繰越金	32,788,845	32,788,845	0	
一般会計繰入金	0	0	0	
その他収入	155	251	96	預金利息
合計	32,789,000	32,789,096	96	

支出の部 (単位:円)				
科目	予算額	決算額	差引増減	備考
同窓会費一般会計へ	1,700,000	1,000,000	700,000	
周年事業	0	0	0	
その他支出	31,089,000	0	31,089,000	
合計	32,789,000	1,000,000	31,789,000	

収入総額32,789,096円 - 支出総額1,000,000円 = 31,789,096円 (次年度へ繰り越し)

監査の結果、適切と認めます。

令和3年3月31日 会計監査 工藤 雅史 生沼 英治

令和3年度 群馬中央同窓会予算

■ 一般会計

収入の部 (単位:円)				
科目	予算額	前年度予算額	比較増減	備考
繰越金	362,767	130,687	232,080	
運営費計	3,288,000	3,342,000	△54,000	
入会金	1,160,000	1,190,000	△30,000	10,000円×119名
特別会費	928,000	952,000	△24,000	8,000円×119名
年会費	1,200,000	1,200,000	0	2,000円×600人
総会会費	200,000	200,000	0	
特別積立会計より	1,700,000	1,700,000	0	
その他収入	233	313	△80	
合計	5,551,000	5,373,000	178,000	

支出の部 (単位:円)				
科目	予算額	前年度予算額	比較増減	備考
会議費計	520,000	520,000	0	
総会	400,000	400,000	0	通常総会
会議費	120,000	120,000	0	役員会
事業費計	4,340,000	4,240,000	100,000	
会員親睦費	200,000	200,000	0	活動費補助
母校寄与事業	1,000,000	1,000,000	0	図書蔵書、地球市民語学研修補助ほか
会報制作・発行費	2,800,000	2,700,000	100,000	
行事費	300,000	300,000	0	開校記念式典補助ほか
Webページ設置管理料	40,000	40,000	0	群馬中央同窓会ホームページ管理料
役員費計	165,000	115,000	50,000	
通信費	15,000	15,000	0	郵便料、メール便
払込手数料	150,000	100,000	50,000	年会費払込料金加入者負担額
渉外費	100,000	100,000	0	交際費
広告費	60,000	60,000	0	高校野球ガイド広告掲載料ほか
慶弔費	120,000	120,000	0	慶弔
卒業記念品費	100,000	85,000	15,000	卒業証書ホルダー
転退職員饗別	60,000	60,000	0	転退職員饗別金
積立金	0	0	0	特別会計積立金
予備費	86,000	73,000	13,000	
合計	5,551,000	5,373,000	178,000	

■ 特別積立会計

収入の部 (単位:円)				
科目	予算額	前年度予算額	比較増減	備考
繰越金	31,789,096	32,788,845	△999,749	
一般会計繰入金	0	0	0	
その他収入	904	155	749	
合計	31,790,000	32,789,000	△999,000	

支出の部 (単位:円)				
科目	予算額	前年度予算額	比較増減	備考
同窓会費一般会計へ	1,700,000	1,700,000	0	
周年事業	0	0	0	
その他支出	30,090,000	31,089,000	△999,000	
合計	31,790,000	32,789,000	△999,000	

令和3年度卒業生(13期生)進路概況

群馬県立中央中等教育学校進路指導部

1 概況

令和4年3月に本校を卒業した13期生116名(男子59名、女子57名)は、後期生活の大半がコロナ禍という状況で、「第1志望校、現役合格」をめざして一人ひとりが前進し、自分の夢や希望を実現すべくそれぞれの進路先に進みました。現役進学率は、94.8%でした。

本校は文部科学省からSGH(スーパー・グローバル・ハイスクール)に指定された平成26年度以降、グローバル教育を推進しています。また、平成29年度からは全校をあげてアクティブ・ラーニングを軸とした授業改善に取り組んできました。さらに、令和3年度からは授業の中で、ICTを積極的に活用しています。このような先進的な教育環境下で、生徒は授業や諸活動に対して探究的な態度で取り組み、将来自らが取り組む社会的な課題を発見してきました。さらに、自己の適性をふまえ、その研究・解決に取り組む場を第1志望校として設定し、その実現をめざして学力の向上に取り組んできました。

13期生は、後期生活の半分以上がコロナ禍である中でも、それぞれが前を向いて着実に前進し、心身ともに大きく成長しました。近未来の社会において、本校の教育理念である「World Citizen」として活躍するものと確信しています。

2 最難関大、医学部医学科

現役生は、東京大に2名(文三1名、工学部推薦1名)のほか、京都大に2名(理、工各1名)が進学します。男女別内訳は東京大が男子1名、女子1名。京都大はともに男子です。

医学部医学科については、東北大に1名のほか、旭川医大、弘前大、山形大、群馬大、大分大にそれぞれ1名、計6名が進学します。その男女別内訳は男子2名、女子4名です。

3 国公立大

最難関大を含む国公立大には現役生のべ55名が合格し、そのうちの45名が進学します。北は北海道から、南は大分県まで、東日本を中心に進学していきます。難関10大学では、上記東大・京大の4名のほか、東北大に5名、名古屋大に3名、一橋大、大阪大にそれぞれ1名が進学します。

4 私立大

共通テストの平均点が下がり、安全志向が強まる中で、13期生はよく健闘しました。最多進学先は早稲田大で6名が進学します。そのうち指定校推薦による進学者は3名でした。

5 過年度卒業生(浪人生)【参考】

現役時には紙一重で涙をのんだ卒業生の進路先としては、群馬大(医)、九州大(理)早稲田大(スポ科学)、中央大(法)等があげられます。

6 展望

2年目を迎えた「大学入試共通テスト」は、思考力・判断力が求められる問題が多数出題されたこともあり、難化しました。昨年度入試がセンター試験とほぼ変わらない平均点であっただけに、複数の教科での平均点の低下はこれまでにない状況を生み出し、手探りの出願でありましたが、振り返ってみると、強気で出願した生徒の方がよい結果を出せたと思います。

令和4年度からは新学習指導要領が始まります。今後は、思考力・判断力がよりいっそう求められる問題が多くなることが予想されます。本校は、グローバル教育の推進とさらなる授業改善が、大学入試改革への対策に直結するものと考えています。生徒全員の「第1志望校、現役合格」を実現するために、今後も関係の皆様のご理解、ご支援を賜りますようお願いいたします。

【表1】卒業生の進路別実人数(現役生のみ)

卒業期	卒業生数	大学		準大学等	就職	進学努力	現役進学率(%)
		国公立	私立				
1	124	50	53	4	0	17	86.3
2	124	51	56	4	0	13	89.5
3	119	50	48	0	0	21	82.4
4	120	49	54	3	0	14	88.3
5	124	60	52	4	0	8	93.5
6	119	61	46	3	0	9	92.4
7	122	60	53	2	0	7	94.3
8	122	44	62	5	0	11	91.0
9	123	52	55	1	0	15	87.8
10	122	57	59	0	0	6	95.1
11	122	65	43	3	0	11	91.0
12	119	54	61	0	0	4	96.6
13	116	45	61	4	0	6	94.8

【表2】13期生文理別、男女別進路先(実人数)

	卒業生数	大学		準大学等	就職	進学努力
		国公立	私立			
文系男子	24	6	17	1	0	0
文系女子	33	11	18	3	0	1
理系男子	35	18	13	0	0	4
理系女子	24	10	13	0	0	1

- 準大学等…文部科学省所管外の大学校のほか、短大、専修・各種学校、海外の大学等を含む
- 現役進学率…(卒業生数-進学努力)÷卒業生数×100



大学等合格者数(最近の3年間)

群馬県立中央中等教育学校進路指導部

- 年度は入試年度
- 数字はのべ人数
- ()内は過年度卒業生の内数
- 大学名、学部名等は現在の名称
- 今年度は、紙面の都合により、準大学(短大、専修・各種学校、海外の大学等)は割愛した
- 令和4年3月末日までの判明分

国立大学

大学名	R2	R3	R4
旭川医科			1
北海道	1	1	
北海道教育	1		
弘前	1		1
岩手			1
東北	5	8	5
秋田	1		
山形		1 (1)	2
福島			1
茨城			1
筑波	4		1
宇都宮		1	1 (1)
群馬(情報)	1	3	2
群馬(共同教育)	4	1	
群馬(理工)	1	2	2
群馬(医-医)	3	4 (2)	2 (1)
群馬(医-保健)		3	
埼玉	2	1	
千葉	3	4	
お茶の水女子	1	1	1
電気通信	2		1
東京	4		2
東京医科歯科		1	
東京外国語	1	3	1
東京海洋	1		
東京学芸	1	1	2
東京藝術	1	1	
東京工業		1	
東京農工	2 (1)		
一橋			1
横浜国立	3	3	1
上越教育			1
新潟	3	2 (1)	2
富山		1	
金沢	2	3	
山梨	1		
信州		4 (2)	3
静岡	2		
名古屋	2	1	3
名古屋工業	1		
京都	3	4 (2)	2
大阪	2	1	1
鳥取	1		
鳴門教育	1		
広島		2	1
九州		2	1 (1)
佐賀	1		
大分			1
宮崎		1	
合計	62 (1)	61 (8)	44 (3)

公立大学

大学名	R2	R3	R4
釧路公立			1
国際教養	1		
会津			1
福島県立医科		2	
群馬県立県民健康科学	1		1
群馬県立女子	3		1
高崎経済	6	4 (2)	3
前橋工科	1 (1)		
神奈川県立保健福祉			1
横浜市立	1	2	1
長岡造形			1
新潟県立	2 (1)	1	
都留文科		1	1
長野	1		
長野県立	1		
公立諏訪東京理科	1		
愛知県立			1
名古屋市立			1
敦賀市立看護		1	
九州歯科	1		
合計	19 (2)	11 (2)	13

私立大学(抜粋)

大学名	R2	R3	R4
共愛学園前橋国際	6	5	9
高崎健康福祉	8	13	14
青山学院	12	5	6
慶應義塾	11 (1)	8 (1)	8 (1)
国際基督教	1		1
駒澤	6	4	6
芝浦工業	19	34	18
上智	1	2	20
専修	8	6	7
中央	19	18	22 (1)
津田塾	8	3	
東京女子	8	4	6 (1)
東京理科	22	25	18
東洋	18	11	8 (1)
日本	16 (3)	26	10
日本女子	11	3	4 (1)
法政	5	22	17
明治	21 (1)	24	20
立教	17	11	17
早稲田	13 (1)	17 (1)	18 (1)
同志社	2	4	1
立命館	4	10	2 (1)
合計	371 (13)	403 (24)	404 (8)

令和3年度 通常総会

令和3年度の通常総会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、当初の予定を変更し会場を変えて終了後の懇親会を行わずに開催しました。

令和3年度 同窓会組織役員

会長 時澤 秀明 (13)	理事 藤川 清幸 (11)
副会長 佐藤 義久 (11) 川島 陽一 (14)	砂長 聡 (14) 反町 雅浩 (14) 関口 朋克 (20) 渡邊 辰吾 (30) 阿久津 等 (31)
書記 福田 幸正 (8) 鈴木 正治 (8)	首都圏支部長 後藤隆次郎 (9)
会計 小和瀬一幸 (14)	首都圏支部役員 上原 裕一 (9)
会計監査 工藤 雅史 (12) 生沼 英治 (17)	顧問 塚越 陽平 (1) 塚越 三三男 (2) 市川 光則 (6)

※ ()数字は中央高校卒業期数

令和3年度 群馬中央同窓会事業報告

令和3年	
4月7日(休)	中央中等教育学校第18回入学式出席
4月28日(休)	第1回役員会
5月14日(金)	第2回役員会 (中止)
5月20日(休)	同窓会報28号発行
6月26日(土)	通常総会
10月1日(金)	開校記念式典出席
10月7日(休)	第3回役員会
11月25日(休)	第4回役員会
令和4年	
2月28日(月)	同窓会入会式出席
3月1日(火)	第13回卒業式出席

朋友会ゴルフコンペ



朋友会ゴルフコンペは毎年4月29日と11月3日の年2回開催されています。今年度も例年通りの開催予定ですので、皆様ご参加ください。

連絡先：佐藤 義久(11期) 携帯：090-3539-5745
E-mail：secfield@olive.ocn.ne.jp

首都圏支部報告

令和3年度の首都圏支部総会・懇親会は、コロナ禍のため開催を見送りました。

今年度はコロナ感染状況の様子で判断したいと思えます。詳細は9月以降にホームページでご確認ください。

年会費振込についてのお願い

会費は同窓会の運営のほか、教育支援等、母校の発展のためにも使われています。趣旨をご理解いただき、年会費2,000円を納入頂けますようお願いいたします。お手数ですが、同封の振込用紙をご利用の上、郵便局からお振込みください。

- 年会費振込口座 ゆうちょ銀行 00570-4-49058
口座名 群馬中央同窓会
- ATMによる振込も可能ですのでご利用ください。
(ただし、手数料がかかります)
 - ・群馬銀行 本店営業部 普通預金 2445643
口座名 群馬中央同窓会 会長 時澤秀明
 - ・東和銀行 新前橋支店 普通預金 0372142
口座名 群馬中央同窓会 会長 時澤秀明

朋友基金 寄附のお願い

本年度も朋友基金の寄附を昨年度までと同様にお願いいたします。

尚、朋友基金の詳細につきましてはホームページ等でご確認ください。

寄附金 振込先

- 群馬銀行 高崎支店 普通 2162103
朋友基金 理事長 矢島正
 - ゆうちょ銀行(総合口座) 10400 30739211
朋友基金
- 振込の際の手数料は、各自で負担をお願いいたします。
一口1,000円より(何口でも可)

編集 後記

会報29号の発行の運びとなりました。ご尽力いただいた方々に感謝申し上げます。

さて、前年度に引き続き昨年度も新型コロナウイルスの影響で活動の自粛を余儀なくされた一年でした。

そんな状況下で、今年も母校の卒業生116名に入会していただきました。

昨年度、母校も様々な活動が中止となる中で、生徒達は一生涯の思い出作りをしたいとの思いから、紫陽祭を企画・立案し、素晴らしい思い出作りを見事に成し遂げましたが、今回入会された116名は最上級生として紫陽祭の実行の中心となって頑張ったと聞いています。このような実行力のある後輩達が入会されたからには、私達もコロナ禍を言い訳にすることなく、より充実した活動を心がけていきたいと思えます。